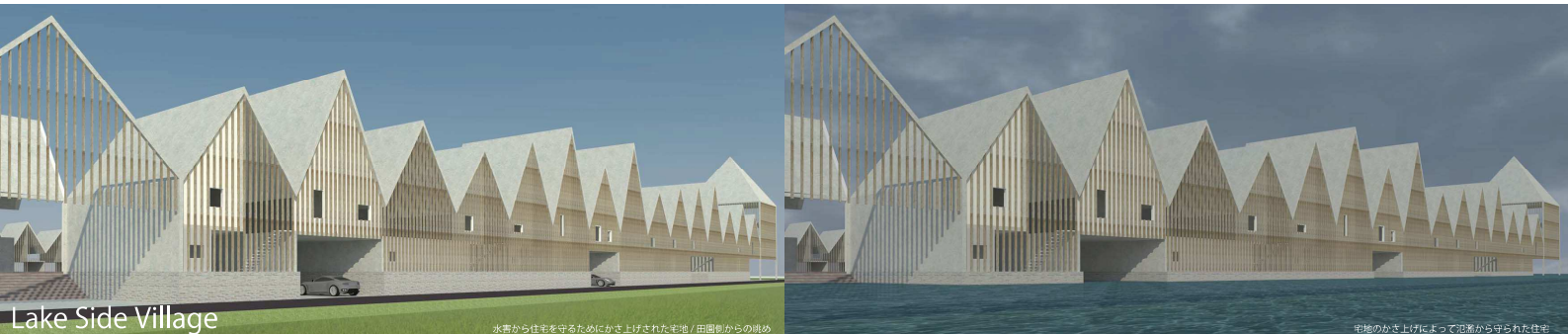
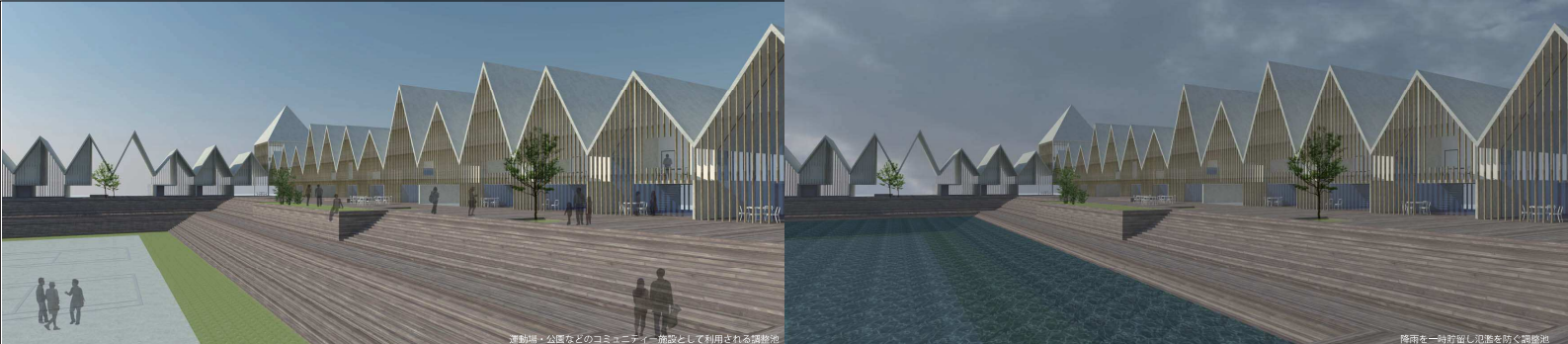




Lake Side Village

調整池 × 住宅

調整池は「水をためる場」でありながら、一方でそのスケールと形態から様々な使い方をしています。そこには巨大な防災備蓄施設でありながら、人と人を結びつけ、生活を豊かにする大きな可能性を感じます。

調整池を町全体に分散配置させます。そして調整池と住宅の融合を提案します。

土木的なスケールの、しかし豊かな環境を生み出す「水のたまり場」は町の水害に対する機能を高めるだけでなく、「人のたまり場」として津島の新たな風景となります。

水害への対応

調整池を造成する際に発生する土砂を利用しつつ宅地を作ります。宅地地盤高さはTP土留を目安とし、大災害に対しては不十分な高さでもしれません。大洪水や大津波には一時的避難場所への移動や災害対策本部からの情報伝達による早期避難への対応が合理的であると考えます。

かさ上げ宅地は対外水氾濫

調整池は対内外水氾濫の発生を抑制

宅地のかさ上げは対外水氾濫用です。調整池は内外水氾濫防止を第一目的とします。また調整池は分散配置されることで集中豪雨等の際の河川への排水量を抑制します。排水量が河川の流出能力を超過する危険を低減することで対外水氾濫防止の役割も担います。

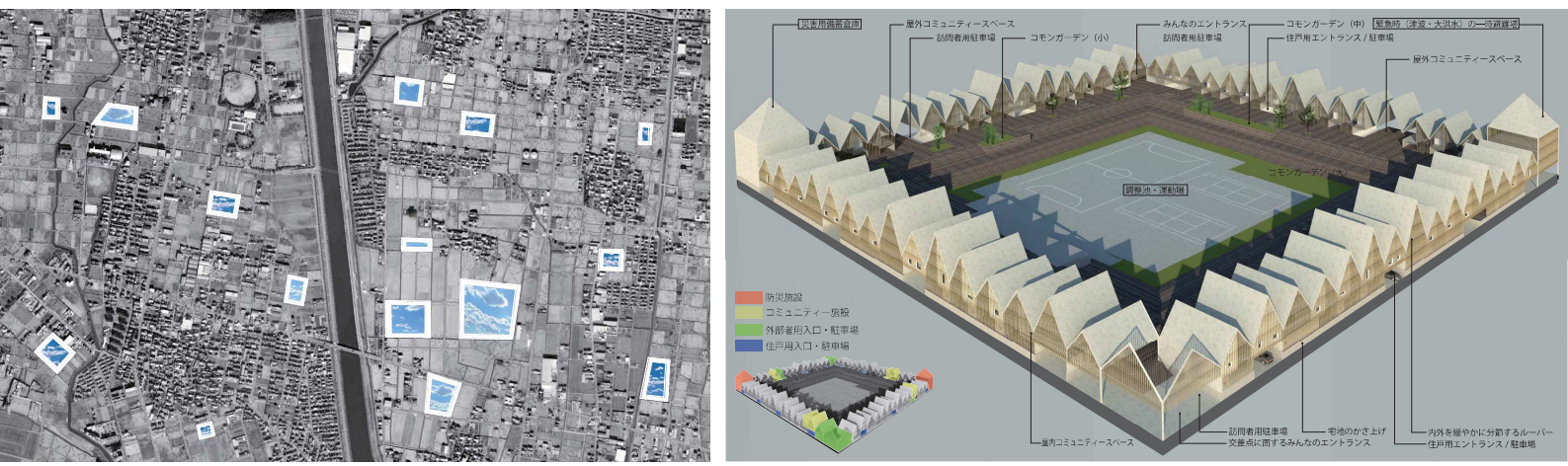
津島の風景・歴史の引用

水辺と住宅

かつての水辺が集落をめぐり、生活と水辺がもつ身近であった暮らしを引用します。失われた津島の美しい風景と水辺での豊かな生活空間を本提案に結びつけます。

宅地のかさ上げ

かさ上げされた宅地の風景と水害に対する知恵を引用します。それは津島の風景への呼びかけであり、水害と戦ってきた津島の歴史に対する敬意の念を込めています。



調整池の配置計画とスケール

配置計画とスケールは必要貯水量と周辺環境により決定します。地盤の低い地区など大貯水量を必要とする地区には高密度・大スケールで配置します。また田園部には大きな、住宅地の近くには小さなスケールの調整池を配置することで周囲の景観と住環境に配慮します。

住戸Aタイプ (単身者、夫婦2人を想定)

専室を2階レベルに配置することで大災害時にも生命の危機と最低限の財産を守ります。上下左右に空間をずらす操作は1階のLDKと2階の個室を緩やかに分離しながら一体感のある開放的な住戸を実現します。調整池側に設けられた1、2階の屋外テラスはルーバーと共に外部との緩衝空間として働きます。

住戸Bタイプ (夫婦2人 + 子1人を想定)

Aタイプと同様に専室を2階レベルにLDKを1階レベルに配置します。対応する2つの個室とLDKは開放的な吹抜け空間を介して連続することで一定の距離感を保つことができます。一体感のある住戸でありながら各個室は固有の領域を獲得することができます。

